

## 『戦争社会学研究』執筆要領

### 1. 形式

- ① 原稿を記述するための言語は、日本語とする。
- ② Word あるいはテキスト形式で作成した原稿に限る。
- ③ 原稿は、1 頁あたり 40 字×35 行で作成する。原稿提出は縦書きでも横書きでも構わないが、誌面は縦書きとなる。
- ④ 原稿には表紙を付ける。表紙には、氏名・所属・メールアドレス・タイトル・内容の要約（500 字程度）を明記する。
- ⑤ 和文は全角文字を、英文などは半角文字を基本とする。数字は漢数字とする。
- ⑥ 本文の句点は全角「。」を、読点は全角「、」を用いること。
- ⑦ 本文には必要に応じて節見出、項見出を付けること。項見出よりさらに低い階層の区分けは原則として避ける。
- ⑧ 補注については本文の脇に注番号を付し、論文末に注を付すこと。  
その際、出典の明記については、author-date 方式（文中に [山本、一九五八] といれるスタイル）ではなく、論文末の注の本文に、引用・参照文献をあげるスタイルとする。

#### 【注の本文の例】

- (1) 吉野耕作『文化ナショナリズムの社会学——現代日本のアイデンティティの行方』名古屋大学出版会、一九九七年、二二四頁。
  - (2) 井上俊「離脱の文化」『死にがいの喪失』筑摩書房、一九七三年、五三頁。
  - (3) 吉野前掲書、二二八頁。
- ⑨ 図（写真を含む）・表には、通し番号と図表の簡潔な説明文（キャプション）を付けること。なお、図や写真の著作権処理は、原則として投稿者自身が行うものとする。
  - ⑩ 原稿には必ず頁番号を付けること。

### 2. 分量

上記「1. 形式」で作成した原稿 15 枚以内（タイトル・本文・注・参考文献・図表等を含む。氏名・所属等は記載しないこと）。

### 3. 注意事項

- ①執筆の際には、投稿者の氏名・所属などが査読者に判別されないよう記述に注意すること。
- ②校正に際しては原則として軽微な字句の修正以外は認めない。

以上